

学生募集戦略検討委員会 総務・企画委員会共催 「学募共同事業」勉強会を開催しました

2018年12月7日(木)に、日本福祉大学東京サテライトにおいて、学生募集戦略検討委員会と総務・企画委員会共催「学募共同事業勉強会」を開催し、15大学26名にご参加いただきました。

冒頭、本協議会 丸山悟会長（日本福祉大学理事長）より、「将来 AI に置き換わらない職業として「ヘルスケアソーシャルワーカー」が挙げられている。ソーシャルワーカーのコアとなる「相談業務」は、AI に取って代わられない。「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」（2018年11月26日 中央教育審議会）において、リカレント教育や単位積み上げによる学位取得について述べられている。ソーシャルワークのコアである「相談業務」の基礎スキルが可視化されていることが、これからのリカレント教育や単位積み上げの学位取得の中でも問われてくると考えている。こういった動向を踏まえ、始まったばかりの本学募共同事業を発展させていきたい。」との開会挨拶がありました。

続いて、以下の2部構成で勉強会を進行しました。

【第1部】「福経協学募共同事業 現状と課題（報告）」

報告：株式会社リクルートマーケティングパートナーズ 飯島隆介 氏
株式会社リクルートコミュニケーションズ 横地祐人 氏

まず、今年度制作した本協議会プラットフォームページについて、アクセス状況の分析結果が報告されました。

また今後、福祉を志望している学生のみならず、福祉を志望していないが「福祉」と親和性が高い学生も取り込んでいくために、昨今の受験生の情報摂取行動（SNS活用等）を踏まえてTwitter広告を活用したWEB施策が提案されました。

あわせて、スタディサプリへの「福祉現場で活躍する卒業生情報」の掲載量を増やしていくため、スタディサプリ 無料登録エリアへの掲載方法について、デモンストレーションが行われました。

【第2部 次年度計画について】

第1部の報告と提案を踏まえ、次年度の学募共同事業を推進するにあたりWEB施策以外に考えられる事等について、グループ別の意見交換を行いました。

「スタディサプリ上に、福祉系学部を卒業して現在の職業に至るまでのストーリーや、福祉で得られるコアスキルを掲載してはどうか。」「福祉のすそ野を広げるためには、AIでは教えられない福祉の価値（心の拠り所 等）を訴えていくことが必要ではないか。」「本協議会のバナーに、「人を助ける仕事」「人の役に立ちたい」等様々な想像ができる言葉を表記することで、広く高校生の関心を引けないか。」「高校生に福祉の広がりを認識してもらうため、SNS、Twitterの他、動画も

活用し福祉のイメージを示すことができないか。」「福祉を学んで目指せる仕事と資格の多さが、かえって、「福祉」をわかりにくくしている。資格名称も高校生が内容イメージしやすい名称に変えていくことが必要ではないか。」等、様々な意見が出されました。

最後に閉会挨拶として、本協議会 学生募集戦略検討委員会幹事校である淑徳大学 戸塚法子先生（総合福祉学部長）より、「1930年代に「ソーシャルワークはアートである」と言われていた。ソーシャルワークをテクニックやスキルではなく「アート」と捉えた時に見えてくるもの（ソーシャルワーカーの分析の感性 等）を前面に出し、学生を惹きつけていくべきではないか。そのためには、スタディサプリ上でも、卒業生が福祉を学び就職に至るまでのエネルギッシュなストーリーを多く発信していくことが必要ではないかと感じた。経営戦略でいわれるレッドオーシャンから抜け出し、ブルーオーシャンを見つけられるのかを今後も本協議会の皆様と検討してまいりたい。」とのご挨拶をいただきました。

以上、半日の勉強会ではありましたが、今後の取り組みを考える有意義な勉強会となりました。



開会挨拶（丸山会長）



第1部報告（横地氏、飯島氏）



第2部 意見交換



閉会挨拶（戸塚先生）